

全員で勝ち取った優勝！
楽しく充実した日々は一生の思い出

綾



放課後練習に打ち込む

8月に山口県で開催された高専体育大会剣道競技の全国大会団体の部で、都城工業高等専門学校剣道部女子が、昨年優勝の鈴鹿工業高等専門学校を見事に下し、初の優勝を勝ち取りました。

同校剣道部は創部50年余りと歴史が長く、同大会の男子団体などで優勝経験を持つ強豪部です。男子部員の活躍が目立つ中、女子部員不在という状況が続き、主将の青井優奈さん（同校5年）が入部した当初も同じ状況でした。

「入部当初は、女子一人で不安だった」と話す青井さんは、小学校5年の時に、友人の影響で五ヶ瀬町の「学心会」で剣道を習い始め、高専でも大好きな剣道を続けたいとの思いで入部。「1年生の頃から、男子部員の先輩らに剣道を指導してもらったり、精神面で

人の風景

Smiling faces of miyakonojo

支えてもらったりして育てられた。今回の優勝も含め、今の自分があるのは監督やコーチはもちろん、男子部員の先輩らのおかげ」と感謝の思いを述べます。現在は、青井さんの妹、青井晴奈さん（同校3年）と綾優貴乃さん、石塚千夏さん（共に同校1年）が所属。女子部員が増え、3人で戦う団体戦に出場できるようになりました。

昨年の大会では、主将の青井さんが九州大会の個人戦で優勝し、全国大会3位という素晴らしい成績を納めました。初出場の団体戦では、全国大会の予選敗退という結果でした。部員らは「悔しい思いをばねに、部員一丸となって全国優勝を目指して頑張ってきた」と力を込めます。男女混合の練習を週5回行い、寮に戻ってから、学校の提出物を夜中まで製作したり、試験勉強を行ったりと、時には部活と学業との両立の難しさに悩むこともありましたが、しかし、限られた時間の中で、無駄のない動きと、技の一本に集中できるかを考え、大会に向けて部員一丸となりました。マネジャーの山下詩織さん（同校5年）も「選手が集中できる環境づくりを心掛けた」と、常に選手を見守り、そばで支えてきました。

今回の大会を最後に、5年生は引退。来春の新しい旅立ちを控え、主将の青井さんは「剣道部に入部したことは一生の宝物。本当に楽しく充実した日々だった」と振り返ります。そして、新主将に就任した妹の晴奈さんや新部員に向けて「これからも都城高専剣道部は、部員全員が剣道を楽しめる最高の場所であってほしい」と語り、最高の笑顔を見せました。

（写真右から）
石塚千夏さん、綾優貴乃さん（共に1年）、
青井優奈さん（5年）、青井晴奈さん（3年）、山下詩織さん（5年）

